

膵臓ガン余命宣告からの復活



中川元一

私がレポートする目的

これは父親の奇跡の物語であり、実話です。

今も奇跡が継続しています。

丸本さん、松永さん、中野さん、ガチ勉強メンバーの皆様、これから最強資産を手に入れられる皆様の実践への足がかりの一助になれば幸いです。



滋賀 中川元一

昨日



奇跡に感謝でございます。
引き続き家族で父親を支えています。

0:01

実はこの件で、自分の妻も少しづつ変わってきていて、薬をのまなくなりました。
風邪を引いてもオレガノオイル、生姜、はちみつで免疫力アップしています。
いい方向です。

皆が学ぶタイミングです。
今講義の方も5話まで進んでいます。
基礎的なところからしっかりと感じ取ってもらうと良いですよ。

0:03



ありがとうございます。
忙しくて、追いついていないのですが、父親が帰ってきたら落ち着くので
家族全員で一緒に学んでいきます！

0:05

ご縁、タイミング、全ての歯車がかみ合っていると感じています。
楽しんでいきます。（無理強いさせるといけないので楽しむ事を最優先していきます）

そうですね。
取り急ぎ月曜の件を楽しみに待ちながら寝ますね。

0:06



ありがとうございました！
明日ご連絡させていただきます。

0:06



目次

私がレポートする目的	1
目次	2
末期だと癌告知	3
主治医の主張	5
家族で一緒に考える	6
何故か見透かされるように当たってしまうこと	8
生きるための方針を医者伝える	9
現状の把握と心の均衡	12
治療を開始	13
理解のある病院での治療	21
診断・治療について	22
変化の兆候	26
生きるということの意味	29



末期だと癌告知

2016年8月のお盆休みで実家に帰省していた事でした。

父親の体調が思わしくなく、大きな病院に診察に行く必要がある事がわかりました。

その時は、食事もしていましたし、寝たきりというわけではありませんでした。

大きな病院は父親が住んでいる所から50kmほど離れているので、母親も一緒につれて自分が病院まで送っていくことにしました。

主治医から父親に渡されていた大きな病院での検査の案内には、「PET 検査」と書かれていました。自分はPET 検査というものが、何の為の検査か知りませんでしたので、すぐさまネットで調査しました。

するとPET 検査は「癌」の検査をするものである事がわかりました。その時に、自分の父親が「癌」の可能性のある事を認識しました。ですがその時は「可能性」があるだけで、まだ、癌で「ない可能性もある」と思っていました。というより、「癌でない」結果になる事を祈っていました。

この時点で、丸本さんに「癌の可能性があること」、そして、もし癌であった場合に、どのようなアクションをすべきかを相談させていただきました。

自分としては、癌治療について、抗がん剤、放射線治療はやってはいけないものという認識がありました。しかし、父親は癌の治療と言えば抗がん剤、放射線治療をやる事と認識していて、その事に対して疑問はもっていませんでした。現代医療に普通にふれているのであれば、当たり前のことです。

当然ですが、母親も同じ認識でした。

質問に対する丸本さんのアドバイスは、要約すると以下のようなものでした。

- 父親が抗がん剤、放射線治療はやってはいけないものと認識しないと意味がない
- 現代医療（抗がん剤、放射線、手術）or 代替治療のどちらを選択するのは本人である必要がある
- 選択した治療での治療結果は自分が選択した責任があり、自分自身が症状に向き合う

数日後、父親はPET 検査を実施しましたが、当日結果は出ず、3日後に主治医の所において結果を聞く流れでした。



そして、3日後に父親、母親、自分で主治医の所に検査結果を聞きにいきました。

主治医からは、短刀直入に症状をつけられました。

「末期癌。部位は膵臓。転移もしている。余命 6 カ月。」

癌である可能性はあると思っていたものの、父親の余命が 6 ヶ月という短いものであるという現実に関をゴツンとなぐられたような衝撃をうけました。

主治医の言葉に「思考が停止」しました。そして、直後から自分の額から冷や汗が出て、手先が震え、そして、息が苦しくなり、気分が悪くなりました。

今までに受けた事のない精神的なショックでした。

はたから見ると自分の顔が真っ青になっていたと思います。

椅子にすわっていたので何とか持ちこたえました。しかし、言われた父親と母親はもっとショックを受けているはずと思い、自分がしっかりしなければならぬと思いました。



主治医の主張

- 転移しており、手術は不可能
- 対応方法は、まず抗がん剤治療。一刻もはやく治療を開始する事をすすめる。
(診察を受けたのは金曜日でした) 抗がん剤治療の開始は来週の火曜日から開始できる。

すぐに判断をするように凄いプレッシャーをかけられました。

ですが、自分は抗がん剤治療は効果がない認識をもっていたので、抗がん剤治療開始については、持ち帰って、家族で話しあって決めたい事を主治医に伝えました。

それに対して主治医は

「判断は持ち帰ってもいいが、今の状況は 1 日でもはやく抗がん剤治療をはじめた方がいい。薬は生もので準備もあるから、来週の火曜日には判断結果を伝えにきてください。言っておきたいことがある。持ち帰るという事はネット等を調べると思うが、「代替医療」に手を出すのだけはやめてほしい。病院がすすめる治療は、化学的エビデンスがある。だから保険医療として取り扱われる。抗がん剤の事を怖がられる方もいるが、それは過去の話である。今は薬も改良されてきており、体質に合わせた薬を選択できる時代である。安心してほしい。代替医療には、エビデンス、根拠がない。あんなものは祈祷と一緒に。絶対に後悔することになる。」

と言われました。

このトークは最強の洗脳営業トークです。

弱った精神状態にして、考える期間を与えない。

そして、知識がない為、権威の権化である医者と言う事は正しい事であると思いきまされてしまう。

自分がもし、ガチ勉強で多くの事を学んでいなければ、父親も含めてその場で抗がん剤治療を選択していたと思います。



家族で一緒に考える

父親の余命 6 ヶ月である事がわかり、自分は父親の為にできる事は全てやろうと決心しました。

しかし、丸本さんからアドバイスを頂いた通り、最終的に治療方法を決定するのは父親です。

母親は病院から仕事に戻っていった為、自分が自動車で病院から実家まで父親を送って行きました。そして、実家に戻って 2 人で今後の治療方針について話しをしました。

自分はガチ勉で健康について学んでおり、丸本さんから教えとアドバイスももらっており、癌の治療には

1. 標準治療（放射線、抗がん剤）：対処療法

主治医がすすめた抗がん剤は、毒物であり体の免疫を低下させる

2. 代替治療：根治療法

体の免疫力を向上する

があること。

その選択は父親自身が判断する必要がある。

そして、選択した治療での治癒結果は、選択した父親自身に責任があることを説明しました。

具体的には不定愁訴（色々な不具合）が出たとしても、それは父親自身が選択した事なので、アドバイスをもらった丸本さんや治療を進めた自分の責任ではない。

自分自身の選択と覚悟をもった選択が必要である事を説明しました。



命のかかった選択ですので、ポジティブな面、ネガティブな面も含めて自分の知っている事を全て語りました。

父親の選択は、代替治療：根治療法をすることでした。

自分も知らなかった事ですが、父親は過去若かりし時にバイクで事故をし、生死をさまよった事があるようです。

『そこからの人生はおまけみたいなもの。

残りの人生を抗がん剤をつかってベッドの上で過ごす事は望まない。

まだまだ、やりたい事がたくさんある。体が元気になる可能性があるのであれば、それに賭ける。』

と言い、父親は覚悟を決めました。

その結果を丸本さんに伝え、代替療法についてアドバイスを頂きはじめました。

癌を治療するにあたり大切な事

1. 本人の生きる意志
2. 癌は治る病気である事を理解する
3. 家族が治療方針を理解し、協力する

父親は1, 2についてはクリアしていました。課題は項目3でした。

自分から母親、弟2人に治療方針と父親の覚悟を説明しました。

そして、家族全員が実家に集まった中で、父親は代替療法をやっていく事を宣言しました。

これから父親が治療していく中で、家族全員が一丸となり、父親を支えていく事を家族全員で共有しました。

家族で一つの事をここまで真剣に話しをした事はなかったです。父親の病気をきっかけに、家族の絆を改めて認識する事になりました。



自分がこの年になって、既に別居している父親、母親と命をかけた会話ができ、「生きる」という事の意味を感じ、家族の大切さを認識できた事は神様からの奇跡のプレゼントだと思います。

何故か見透かされるように当たってしまうこと

丸本さんからアドバイスを頂いている中で驚愕しました。

丸本さんのお話しが、予言者のようにピッタリと当たるのです。

「膵臓癌なら 2 型糖尿病を既往症としてもっていますよね？他にもあるでしょ？」

自分も把握していなかったのですが父親は既往症としていくつもの病を抱えていました。

- 高血圧：10 年
- 通風：20 年
- 2 型糖尿病：7 年
- 歯槽膿漏
- 腰痛

それらの治療の為に薬を 8 種類も飲んでいました。

- ◆ アテック錠
- ◆ ノルバスク OD 錠
- ◆ ピオグリダゾン錠（アクトス錠）
- ◆ クレストール錠
- ◆ フェブリク錠
- ◆ グリメピリド錠
- ◆ ミカルディス錠
- ◆ ジャヌビア錠

医者処方されたら、一般的にはそれを疑うことなく薬を飲むと思います。



父親も何の疑問もなく8種類もの薬を飲んでいました。

丸本さんから、まず自分でそれぞれの薬について自分自身で調べるように言われました。

言われた事をそのまま鵜呑みにするのではなく、自分で調べて（調べる時はポジティブな面・意見、ネガティブな面・意見 両方を確認する。）、内容を理解して、納得して判断、実践する事が肝心な事を改めて学びました。

調査してわかったのは、薬には必ず副作用がある事です。

しかも、複数の薬を飲んだ時に薬どうしが複合した場合の影響度（副作用）はわかっていないのです。カクテル効果で原因不明な病の元となる場合があるそうです。

そして、父親の既往症のような慢性疾患の場合は、病気にかかったら医者信じている限り医者にかかれば対処療法になるので当然なのですが、一生薬を飲み続ける事になるのです。今考えると本当に恐ろしい程の薬の量なのです。

生きるための方針を医者伝える

治療方針を決定したので、主治医に治療方針を伝えました。

父親本人の口から、医師に明確に伝えました。

『癌は怖くない。抗がん剤が怖い。』

もともと若い時に一度死にかけた。そこからの人生はおまけと思っている。

だから、抗がん剤治療はうけない。』



医師は父親の意思を尊重して、

何もしない事を了解しました。月に1回は診察にきてもいい。（状況確認の為です）何かあったら、外科に連絡してくればできる限りの協力はする。

とのコメントです。

その後、父親に退席してもらい、症状の詳細説明を受けたい事を要望しました。

医師はそこからちょっと投げやりな態度になりはじめました。

それでも食い下がって、所見を聞かせてほしい、PET 映像を見て詳細説明を聞きたいと御願いし、何とか説明をもらいました。

- ◆ **膵臓癌 ステージⅣ B**
- ◆ **肝臓にも腫瘍有**
- ◆ **腹膜にも転移している**

『対応としては、抗がん剤治療しかない』

説明をしてもらった後に、父親が抗がん剤治療はしない事を決めたので、セカンドオピニオンを受けたい事を伝えました。

プライドを傷つけられたのか、そこから態度が悪化しました。

代替療法をやるとはこちらから何も言っていないのですが、

「標準療法では抗がん剤以外の選択はありえない。もし、民間療法をやるといのであれば、祈祷と同じ。そんなものに保険診療で診療した結果を渡す事はできない。拒否する！」

といわれました。

私からは、現時点で具体的な内容はこれから調査する事を伝えた所、まず、いく病院を決めてから相談しにくるよう言われました。（多分ですが、何をいっても診療結果を持たせてくれなさそうな勢いでした。）

（後から調べたら主治医は京大大学院卒でした。見た目プライドも高い感じでした。）



抗がん剤治療を受けないとなったとたんに、医者にとって、父親は「お客様」ではなくなったのです。この為、情報も出してくれないし、かたくなな態度になりました。

一般的にがん治療をすれば病院には数千万単位のお金が落ちます。

ですので、抗がん剤治療をさせるように医者はある意味「必死」です。アメとムチを使ってゆさぶりをかけて、何とか抗がん剤治療をさせようとしています。

主治医との質疑応答で面白いやり取りがありました。

(自分は癌が発生するメカニズム。抗がん剤が効果があるとされる理由も事前に理解していましたが、主治医がどこまで理解しているかを知る為にわざと知らないフリをして質問しています。)

私：なぜ癌になるのでしょうか？

主治医：そんな事私に聞くな。それがわかったらノーベル賞がとれる。

私：なぜ抗がん剤は癌にきくのでしょうか？

主治医：癌が縮小する。

私：なぜ縮小するのでしょうか？

主治医：……

毒だからだよ……

癌は人口を減らす為の病気。

そういうものだよ。

お客様でなくなった後で、私がねちっこく聞きまくった為、主治医も思わず口がすべったのでしょう。

本音がでてしまったのでしょう。(これ録音しています)

この主治医は患者の事なんて全然考えてない事がわかりました。



現状の把握と心の均衡

父親が代替治療を開始した時点の状況です。

身長：162cm

体重：68kg

年齢：71歳

現在治療中の病気：通風（20年前から）、糖尿病（7年前から）、歯槽膿漏、腰痛（15年ぐらい）

ガンの症状：膵臓 5cm ぐらいのかたまり、おへその所 2~3cm ぐらいのかたまり（おへその所は外にでてきていてジクジクしている。）、その他 腹部数箇所が悪性腫瘍と考えられるかたまりがあります。（臓器ではないとのことでした。）PET 検査、CT 検査の結果です。

医師のコメントは、膵臓だけであれば手術で切除という選択もあるが、複数の腫瘍がある為手術で取り除く事は不可。抗がん剤治療しか方法がない。治療をしない場合の余命は6ヶ月。

本人の自覚症状としては、おへそがジクジクしている所が、いたがゆい感じ。それ以外に痛い、身体がだるいという事は無し。

自分の父親は宮大工で自営でやっている為、仕事は自由に休める状況でした。（今でも現役です。）

今回の診察結果を受けて、仕事は腰痛があるのもともと重いものをもつ仕事はできなかった。

仕事はもともと趣味でやってるもので、この検査結果をうけて、これからは身体を養生する。

やりたくなったら、細かい仕事をちょこちょこ自分のペースでやっていこう事を父親は決めていました。

治療に当たって丸本さんからアドバイス頂いたのは、

生きたいという強い気持ちを持つ事

モチベーションを維持しつづけられるレベルで取り組めること

（何でもかんでもダメとなると継続できなく、心が折れてしまう）



でした。

ここで、難しいと感じたのは、周りの人間（自分も含めてです。）としては、命がかかっているのだからできる限りの事はして当然という気持ちです。

ですが、命がかかっても出来る事と出来ない事があるのです。

心が折れないレベルで実践し、それを継続するという事は想像以上に難しい事とかんじました。

自分の父親がよかったのは、末期癌であるものの自覚症状が少ない、膵臓癌であったことです。

痛みという自覚症状がなかった為、余命半年と言われたものの、自覚として父親としてはそのように感じていませんでした。

治療を開始

まずは、食事を変えることです。具体的には、癌の餌となる糖質を減らす事から開始しました。

特にお米を極力減らすことです。

ですが、これが父親にとっては高いハードルでした。

理由は、父親が白ごはんが大好きだからです。

とにかく、白ごはんが大好きで、腹いっぱい白ごはんを食べいと満足できないのです。

それは父親が育った環境による影響でした。

父親は宮大工（職人）ですが、中学を卒業して、丁稚奉公として弟子入りして宮大工になりました。

修行中は、白ごはんも満足に食べられなかった為、一人前になったら、腹一杯白ごはんを食べる事を

目標として修行に励み、そして一人前になった後は白ごはんを腹一杯食べる事で目標を達成し、

そして、それを数十年継続してきました。

お腹が減ると、夜中でも白ごはんを食べていました。



ですが、父親は自分の大好きは白ご飯を少しずつ、少しずつ減らしていきました。

今まで「どんぶり」一杯食べていた白ご飯を、「おちょこ」一杯に減らしました。

そして、その後 1 週間程度で、白ご飯を完全にやめてしまったのです。

自分は、その経緯に本当にビックリしました。

同時に糖質が含まれている酒もやめました。（職人なので酒は大好き。特にたくさんの人と一緒に飲む酒が大好きです。）

そして、肉（たんぱく質）、脂質（MTC オイル、ギー、バター、ココナッツオイル）を中心にした食事を開始しました。

今回治療を進める中で、大切だと感じたのは、「自分で感じる力」を持つ事です。

いい事はわかっているけど、それが自分に合うかは、はっきり言ってわかりません。

人によって、体に合う物、合わない物、またその量（閾値）は違うものです。

それは、探りながら、探し当てるしかありません。

同じ体は一つとしてないのです。そして、人間は心と身体でできているのです。

この治療法を開始するにあたり実際、丸本さんから、

- ・ 甘みや大好きな穀物を抜く事がストレスになるかもしれない。
- ・ ストレスを感じながら生活を変えて楽しめるか。

という疑問を投げかけられていました。

父親は、この食事 & 治療に全てを賭けていました。

父親が母親と自分の 3 人である時に言った言葉がありました。



「ダイエット目的なら出来ないし、ダイエット目的なら人の目を盗んで食べるかもしれないが、命がかかっているから、自分自身に妥協せずにやる。」

生か死かという追い詰められた状況であればこそその覚悟が行動につながったのだと思います。

生きたい（やりたい事がある）という強い意思、そして、継続し続けるという強い意思が化学反応を起こしたので

元々父親は地元の友達と一緒に猟にいったり、猪や鹿をとってきて、それを冷凍庫に保存してたまにですが、食べていました。

丸本さんから野生の猪や鹿、熊の肉は身体にとって推奨の肉であるとアドバイスを頂いたのでそれを父親に伝えた所、肉はたんまりあるから、これからはそれを食べていく。

と嬉しそうにしていました。

父親が好きでやっていた事と治療との歯車がどんどん噛み合ってきて、モチベーションを維持しやすい状況になっている事を感じました。

丸本さんからアドバイスを頂いたのは、本当に多岐にわたります。

- 癌になるメカニズム
- 癌の最新の治療方法
- 食事内容（免疫力向上血糖値コントロール食）
- 食材の選び方
- 高圧酸素カプセル治療
- 現代医療の問題・課題
- 今後治療を受ける病院
- 栄養取得の考え方（バランスが大切）
- 意識の持ち方（症状に感謝）
- 野菜スープによる栄養取得
- 家族の接し方
- 骨スープの作り方
- お風呂の入浴剤



- デトックスの方法（ヒマシ油温湿布・ねばねば野菜）
- 石鹼の種類
- 歯磨き粉（塩・重曹）
- 血糖値&ケトン値測定機
- ミトコンドリアの呼吸&エネルギー産生
- 蜂蜜・生姜の有効成分がもっとも効果があっける温度
- デトックス飲料
- タバコの選び方
- ビタミンの取り方
- 温泉治療の方法（温泉の選び方、湯治方法、入浴方法、予算化の方法）

アドバイスを頂く範囲の広さ、深さ、そして、そのリスクを精神面、身体面まで考えてのアドバイス。

本当に本当に驚愕しました。

その中で丸本さんからのアドバイスの重要なポイントは、

- ・ 自分で確かめる事
- ・ バランスをとる事
- ・ つなげて考える事

だと自分は感じていました。

食事を変えはじめて、1週間後には自覚症状が出てきました。

父親は便が柔らかく下痢気味であったのですが、ちょうど良い便の柔らかさになってきました。

その為快便になり伴い、快眠になってきて、朝快適に目が覚めるようになってきたのです。

身体が軽く、体調が良くなってきました。

しかし、日によって山谷があるとの事でした。



丸本さんにアドバイスを頂いていたように良い反応、悪い反応の両方があるのです。

丸本さんのアドバイスは次に起こる事が予言されていて、心底驚愕しました。

父親にも事前に丸本さんからのアドバイス内容を常に伝えていたので、前もって心づもりができていた為、父親はぶれずに前に進めたのだと思います。

この事は父親自身が自分の体質、状態を感じながら、合う食材、量をコントロールしていくのに好影響を与え、凄くありがたかったです。

治療の進捗ですが

1. 8月19日～8月27日 食事の改善

ご飯の量低減（3食 ごはん 茶碗 大盛り 1杯→おちよこ 1杯）

肉、野菜、油中心の食事を実践

2. 8月28日～9月7日 代謝を高める準備

体調がよくなってきたので1日 30分のウォーキング開始

高圧酸素カプセル治療開始（30分/回 週2回）

3. 9月7日～9月8日 断食準備開始

デトックス開始：ゴーヤ+レモンドリンク

この時点で体重が5kg減少。（69kg→63kg）

4. 9月9日～9月16日 断食開始

目的は癌の拡大防止です。9月9日から断食を実施しました。

父親が断食を実施するにあたり、自分も一緒に断食をする事にしました。

9月9日は金曜日でしたので、自分は会社に出勤し、朝から水のみで生活です。

夜、仕事が終わったらそこから実家に直行しました。

夜9時時頃に実家について、父親の状況のヒアリングを実施しました。

気分は問題なし。

しかし、ここでビックリする事が発覚しました。父親は飲んでいた薬を既にやめていたのです。

丸本さんからは減薬、断薬は細心の注意が必要で、専門知識をもった医師の監視下でないと実施が難しい事をアドバイス頂いていたのです。

経緯を聞くと、9月7日に薬を飲むのを忘れていた。

何ともなかったのですが、そのまま薬を飲んでいないという事だったのです。



体調、顔のほてり、身体のむくみ等含めて薬を飲んでいなくても体感的には何も問題がないというのです。

その時点で測定結果（9月8日測定結果）

食後 30 分時点血糖値：110mg

薬を飲んでいないにも関わらず健常者のレベルでした。

今まで飲んできた薬って何だったのか……。

父親も自分も現代医療って何なのかという疑問が実体験として大きくなりました。

ケトン値：2.2mmol という結果がでました。

糖質をとっている一般人のケトン値は 0.1mmol 程度です。

何と一般人の 20 倍以上のケトン値です。

癌の増殖に対しては 1.0mmol 以上目安ですので、凄く順調な結果です。

その夜から自分は実家にとまり、まさに寝食（断食なので食べてませんが（笑））を共にしました。

既に実家を出ていて、結婚して、子供がいて、40 歳を既にすぎた後に、父親と寝食を共にするとは想像もしていませんでした。

これは癌という病気をしなければ有り得ないことでした。

癌という病気をきっかけに家族という絆を再認識し、大切な事は何なのか、生きる事の意味を改めて考える機会を神様からプレゼントされたと感じました。

断食中は

- ・ゴーヤ+レモン デトックスドリンク
- ・りんご酢+レモン+生姜 デトックスドリンク
- ・水（近くの湧き水（名水）を汲んできています）のみです。

1 日目の夜は、自分は相当お腹がすいてきました。

父親は大丈夫といていたもののお腹はなりまくっていたので、空腹感があったようです。

2 日目になってくると、空腹感はあるものの身体が慣れてきました。やることがないので、父親と長時間色々な話をしました。

- ・薬がなくても何ともないこと。
- ・高圧酸素は身体が軽くなること。

空腹感はあるものの、身体を動かす事が好きな為、大工仕事の仕事場について軽い仕事もしていました。



空腹感が非常に大きくなってきて、テレビで料理番組をやっているのを見て、食欲がわいてきてしまったのでチャンネルを変えてました。

小便も順調。但し、大便是出ず。（食事をしていないので出るものがない）

3日目

朝時点での測定結果

血圧：117mmHg/75mmHg

血糖値：89mg

順調すぎる値です。（当然ですが、薬は一切飲んでいません）

空腹感がありすぎて、朝5時に目が覚めて、時間をもてあますので、趣味である鮎とりにしていました。

昼は大工仕事と畑仕事をして、エネルギーに活動していました。

小便も順調。

この日は大便秘が出たのですが、何と「青い便」がでました。（自分は何もでませんでした）

丸本さんからは、要らないものが出始めていい傾向だとコメントを頂きました。

体力、気力が充実していて凄いい状態となってきました。

お忙しい中ご連絡ありがとうございます。

17:12

おしっこ7回 色は
うんち 今日1回 青いウンチがでたとのこと。

おへそはちょっとマシな気がするが、日によってシクシクする時があります。

痰、目くそ、鼻くそはありません。

昼は大工仕事と畑仕事をしていました。

体温ですが、朝一で36.1度でした。

今は体力があり、気力も充実していると感じます。

以上ご確認よろしくお願い致します。

おしっこですが、少し黄色いとの事でした。



なんか出始めたかもしれないね。
（要らないものが出始めたと言う意味。）
良い傾向だと思います。

17:13

ほんのちょっと体温が低い傾向ですね。
年齢から見ると妥当なんですけど、もうちょっと欲しい（これは個人的意見）



4日目 回復食

朝：鶏がらスープ

圧力鍋でつくった鶏がらスープを父親と自分二人でのみました。

塩のみで味をつけた凄くシンプルなスープでした。

「めちゃめちゃ旨い！！！！！」

断食で味覚が鋭敏となっていて、身体に染みわたります。

昼：圧力鍋でやわらかくした肉

夜：圧力鍋でやわらかくした肉

この回復食も、一般的に考えられている回復食とはかけ離れています。

一般的には、お粥を少量食べる事が基本です。

ですが、糖質をとらない食事法である為上記内容での回復食を実践しました。

5日目 回復食

朝：圧力鍋でやわらかくした肉・温野菜

昼：蒸し魚・温野菜

夜：圧力鍋でやわらかくした肉・温野菜

6日目 回復食

朝：蒸し魚・温野菜

昼：圧力鍋で柔らかくした肉・葉ものサラダ

夜：焼き魚・葉ものサラダ



7日目以降 通常食

通常食に戻してから2時間後血糖値：107mg、血圧：117mmHg/78mmHg

健常者レベルです。

断薬、断食をやり切れた事で、身体の調整力、免疫力の向上ができて、治療のベースが出来上がりました。

この時点で、丸本さんから病院での治療のGOができました。

理解のある病院での治療

丸本さんから紹介頂いた福岡県久留米市にある一番街診療所の細川先生にコンタクトをとりました。

ありがたい事に丸本さんから細川先生に事前に概略をお伝え頂いておりました。

私から父親の最新の状況の説明と受診する日の相談を行いました。

細川先生からは、

100%なおるとは言えない。

膵臓癌という事を考えると確率的には40%。

とはっきり言われました。ですが、父親には迷いはありませんでした。

生きるとう意味を深く考え、抗がん剤を使用してベットの上で寝たきりである事を父親は「生きている」とは

考えませんでした。

縁というのは本当に奇跡的なものだと感じます。

もし、丸本さんとのご縁がなければ、遠く離れた土地での治療を選択する事はありえませんでした。



細川先生の治療方法は SHT 治療という温熱治療方法で、癌の縮小と身体の免疫治療向上という今まで丸本さんのアドバイス頂いてきた治療と同じ方向での治療です。

正しい事を正しく伝えて頂き（リスク、現状での治癒率）、父親、家族で細川先生に治療をしてもらう事を選択しました。

本当に不思議だったのは、丸本さんと細川先生は同じ匂いがするのです。（いい意味です！）

父親そして自分は本当に幸運です。

細川先生の受診は 9 月 23 日でした。

細川先生に言われたのは、癌の原因は長期間のんできた薬の影響である事を言われました。

これは、丸本さんに言われていた事と同じです。

そして、9 月 7 日をもって薬をやめた事を伝えると、細川先生もびっくりされました。

食事についても断食 & 免疫力向上血糖値コントロール食を実施している事を伝えると、

「非常に辛い食事を守っていて素晴らしいです！」と賞賛されました。

診断・治療について

1. 診断

メタロンの最新鋭機（SAKURA 2016 年に発売されたばかりの最新鋭機）で行いました。

メタロンというのは、日本では一般的ではありませんが、ロシア製の診断機で波動を読み取り身体の状態を診断します。

欧州では、保険診療で使用されているものです。

身体への負担は一切ありません。

細川先生曰く、CT、PET 診断は被爆する為、身体の抵抗力が下がってしまうとのことでした。

なので、癌の診察をするたびに身体に負担がかかり免疫力が下がっていくのです。

検査するたびに身体の免疫力が下がっていくという事は、現代医療の医者は一切言いません。これも現代医療の闇です。



細川先生にお教え頂いたのですが東大出身の癌専門医 271 名に下記アンケートを実施したそうです。

①自分が癌なった場合に、抗がん剤治療、放射線治療を実施するか？

抗がん剤治療、放射線治療を実施する：1 名

抗がん剤治療、放射線治療を実施しない：270 名

②患者に抗がん剤治療、放射線治療をすすめるか？

すすめる：271 名

最高学府の医者が上記状態なのです。この事実を知って、現代医療の闇の深さを思い知りました。

父親の診断結果は

膵臓の機能が落ちている（膵臓癌）

肝臓の機能が落ちている（肝臓癌）

でした。

ですが、人は癌では死にません。

癌によって、臓器不全が起こることによって死ぬのです。

2. 治療

SHT 治療：20 回（1クール）（局部だけを温める波動温熱療法）

高濃度ビタミンC療法：MAX 6 回

を進めることになりました。

これは、丸本さんからアドバイスを頂いていた食事等の治療と並行しての実施です。そして、久留米で高圧酸素カプセル治療を受けられる接骨院を探して、SHT 治療 + 高圧酸素カプセル（30 分）を毎日実施することにしました。

初回の治療を受けた時、自分もどんな治療なのかを見ていたのですが細川先生から「一度体験されてはどうですか」とすすめられたので自分も SHT 治療を受けました。

健常者が受けても、免疫力が上がる為、治療を受ける事にリスクはないのです。



細川先生はなぜか「前立腺にたっぷりあてておきましょうwww」と下腹部を重点的に元気にしてくださいました。

(この点も丸本さんと同じ匂いを感じました)

治療の後、湯治ができるように探しておいた温泉（フルボ酸という抗酸化力が高いお湯がでる温泉）に父親と2人で民宿にある自転車に乗って2人で出かけて、じっくり温まりました。

その後の、民宿までの帰り道は、秋のやさしい風が心地よく、父親と凄く気持ち良い時間を過ごす事ができました。

9月23日に受診（このときは自分も一緒に久留米にいます）して、それ以降は近くの自炊できる民宿を借りて毎日父親は病院に通いました。（免疫力向上血糖値コントロールを継続する為には、自炊する必要がある為に自炊できる民宿を探しました。）

治療開始後の測定結果（9月30日時点）

血圧：120mmHg

血糖値（食後2時間）：109mg

ケトン値：1.9mmol

体温：36.0度

9月24日以降の生活

8:30～9:00 高圧酸素カプセル

9:00～10:00 移動

10:00～10:30 SHT 治療

10:30～12:30 移動

13:00～14:00 昼食



14:00～15:00 休憩

15:00～16:00 温泉

19:00～20:00 夕食

(丸本さんから食事と食事の間を 18 時間あけるようにアドバイスを頂いています)

そして、治療を続けていた 10 月 1 日 父親から朝電話がかかってきました。

出だしから凄いテンションです。

「身体がめちゃくちゃ軽い！！めちゃくちゃ調子がええ！！！」

「駅から民宿（2km はあります）まで走れそうや！！！」

その日以降、西鉄久留米の駅から高圧酸素カプセルのある接骨院（片道 2km 程度）までを歩いて通いました。



変化の兆候

気力、体力がどんどん上がっていったのですが、翌日の10月2日 父親から血液検査の結果、尿酸値が高（尿酸値：11.1）かった。足の先がピリピリする感じがする。と連絡がありました。

ありがとうございました。 2016年10月2日

丸本さん 9:26

細川先生の所で血液検査をした結果 尿酸値が高いといわれたとのことですよ。
尿酸値；11.1

現時点では痛みはでていないとの事でした。

注意しないといけない事はございますでしょうか？

現在の食事ではプリン体が多いものは取得していないと思います。
自分が調べた中では、水分を多くとると排出されるので、水分をとるように父親に伝えるのがよいかと考えております。

父親は念の為、処方してもらっている通風の薬を実家から送らせてました。
但し、現時点ではまだ薬は飲んでいません。
(父親には薬は飲まないほうがいい事は伝え済みです)

以上 お忙しい中、お手数をおかけいたしますが、ご確認の程宜しく御願いたします。



通風は摂取するプリン体じゃないんですよ。自己免疫の誤爆なんです。
通風の人がウニ山盛り喰っても変わらないんです。薬飲んでも治らないでしょ？
医者には治せない病気の一つです。
代謝機能を疑った方が良いと思いますね。
普通に細胞代謝の段階で尿酸が作られるわけですが、老廃物（尿）として排出されないのだと思います。また、癌を患う人は尿酸が高くなりがちです。
対策としてはアルカリ食品をしっかりと摂取することですね。野菜はしっかりと摂っていると思うのですが、SHTや温泉や高濃度酸素などをやると細胞代謝が早まっていると考えられるんですが、排出が追いつかないのかも知れないですね。
・水やお茶をしっかりと飲んでしっかりおしっこする

10:25

こちらについてなんですが、尿酸が高い人が水やお茶を飲むのはいいですか？

- ・水やお茶をしっかりと飲んでしっかりおしっこする
- ・重曹（炭酸水素ナトリウム）を水に溶かして飲む（薬局で買う。掃除用などを用いない）
- ・野菜をしっかりとよく噛んで食べる。

ここで痛風薬は飲まないでね。
ひょっとするとがん細胞が死に始めているかも知れないんですが・・・

10:35

急激にがん細胞を死滅させると核酸分解で高尿酸になるんです。ただし度が過ぎると腫瘍崩壊症候群と言って、臓器不全を起こすことがあります。

10:38

元々痛風持ちなんで、どちらとも判断が付きませんが、尿酸値高いからと言って尿酸値を低下させる薬では元の本阿弥です。

10:42

因みに、断食やっても尿酸値が上がる人がいるんです。
それは代謝促進によって尿酸が作られて排泄が追いつかないタイプの人です。

10:43

年齢からしてもそうですし、長年の薬漬けの影響もあり、腎機能は落ちてると思うんですね。

10:44



尿酸値に関してですが、現在の治療によるものなのかどうかの判断が付きかねるので、なんとも言えないのですが、薬は最終手段として考えた場合、ハーブまたはハーブサプリなどで対処すると良いと思います。
勝手な想像ですが、通風はめっちゃ痛いので、本人にも痛みと恐怖の記憶があると思うんです。そこで、暗示も含めてめっちゃめっちゃ効くハーブを紹介します。しかも現在の各療法の邪魔をせず、体力の消耗もない方法です。
(本人にはめっちゃめっちゃ効くと言って渡すんですよ)

3:48

セロリシード（セロリの種）
ごまのように使ったりします。肉とか魚のソテーなどにスパイスとして使用します。面倒だと思うのでサプリもあります。
<http://www.iherb.com/celery-seed?rcode=dkq364>

ネトル（西洋イラクサ）のお茶
これは検索すると日本でお茶として売っています。
サプリとしては日本の物はちょっとわからないので以下
<http://www.iherb.com/nettle-root?rcode=dkq364>
利尿作用が有り、腎臓機能が強くなります。

3:51

日常食の中にセロリを取り入れるのも良いですよ。

3:54

お金はそんなにかかりません。
それぞれ薬効も期待できますが、何よりも気力をそぐ記憶から守ることが大切だと思いますし、思い込んでくれれば薬効以上の効果を得られます。

4:01

値を聞いて精神的に通風の記憶がよみがえってきたのだと思います。

ここで、通風の薬を飲んでしまっただけでは、今まで積み上げてきた効果が、もどに戻ってしまいます。

丸本さんに相談させて頂き、ハーブのアドバイスをもらいました。

腎臓機能を強くする為に

- ・セロリシード
- ・ネトル（西洋イラクサ）

それを父親に渡すときに、このハーブの効果を詳しく説明し、プラセボ効果もプラスしています。

精神と心身 ダブルの効果を狙ったアクションです。

丸本さんのアドバイスは本当に奥が深すぎです。

そのハーブを使用した結果、通風の発作は再発せずに治療を継続できました。

不定愁訴がでてきた場合に、精神面でダメージをおってしまうと治療の継続が本当に難しくなると思います薬を飲まずに治療を進めることができたのは、今回の治療の進捗で大きな山だったと思います。



そして、2つ目の大きな山は久留米での生活の長期化でした。

自分の父親は社交的なのですが、久留米には知り合いは一切いません。

事ある毎に自分から電話でフォローをしていたものの、孤独感がでてきてしまったのです。

そこで SHT 治療 1クール（20回）が完了した後の10月29日に父親を迎えにいき、一緒に実家に戻りました。

そして11月2日まで実家に滞在し、リフレッシュして11月2日夜に再度久留米に移動して治療を再開しました。

この時に感じたのは、精神と身体のバランスがとれてこそその健康であるという事です。

気力、体力が充実しないと回復への歯車は最高の状態にはならないということです。

人間は一人では生きられない。

父親も家族、そして仕事仲間と会えたことによって気力が復活したのだと思います。

父親の治療は、

- ・本人の気力・体力
- ・家族・仲間の支え
- ・医師の支え

という奇跡のトライアングルのサイクルが最高の状態で作動しました。

11月3日から SHT 治療 2クール目（20回）を開始しました。

丸本さんアドバイス内容と細川先生の治療を並行して11月27日まで実施しました。



生きるということの意味

2016年11月21日



こんにちは

9:20

海外出張中ですかね？

父上の経過はどうですか？

ビタミンC投与が追加されてからの経緯は以前と比べてどうでしょうか？
暇な時で構いませんので、簡単な経過をお知らせください。

2016年11月25日

こんばんわ

23:41

レスポンスが遅れて申し訳ございません。
本日帰国いたしました。

父親の最新状況をご連絡させていただきますのでご確認の程、宜しく御願いたします。

1. 体調

風邪をひくこともなく良好です。
散歩も継続しており、体力維持もできています。

2. 症状

メタロンでの検査結果は、膵臓の機能が回復してきている。とのこと
です。

SHT療法での治療ですが、11月28日に追加20回分でおわります。
ビタミンC療法は3回実施したとの事です。
体調は良好です。

細川先生からはビタミンC療法はMAXで6回までと言われていました。
あと3回するかは現時点で未定です。

細川先生からは、11月28日のSHT治療で合計40回治療になるので、一旦治療は
終了。

以降は、自宅で温熱療法（遠赤外線を当てる）を継続すればいいといわれた
とのこと。

11月27日に自分も久留米にいて、28日父親と最終治療と先生へのお礼と
今後の対応についてのアドバイスを頂くことにしました。

そして、11月28日に滋賀県に父親と一緒に帰ってきます。

3. 食欲

食欲はあり、今までと同じリズムで食事をとっているとのことでした。

4. 通風

通風の発作はでておりません。

5. 精神面

滋賀県に戻れる為、いい気持ちになっています。

精神的疲労が少なくなった事により、気力、体力が充実し、そして、治療効果がでている事が体感及びメタロンの再検査で明らかになってきました。



2クール目完了後の11月27日のメタロンの診断結果で、膵臓の機能、肝臓の機能が復活している事がわかりました。

細川先生から、癌では死なない。

膵臓の機能、肝臓の機能が働いていれば人間は生きていける。

と力強いお言葉を頂きました。

その結果は、細川先生から丸本さんにもお伝え頂きました。

そして、11月28日 お礼の為に、父親と自分で丸本さんにお会いさせて頂く事ができました。

父親の若かりし頃の話から、癌告知から治療にいたるまでの経緯、今の状況までを直接話しをさせて頂いて父親は本当に喜んでました。

父親はどうしてもタバコがやめられませんでした。

直接お会いした際に、いいタバコを吸うと良いとアドバイスを頂いたので、ブラジル産のタバコ葉を使用した無添加タバコに変更しました。モチベーションを維持する為に、人生で何を生きているととらえるのか。

これは人が決められる事ではありません。

自分自身が覚悟を決めて決断する必要があるのです。

正解は自分自身の中にあるのです。

一般的に売られているタバコは、アメリカ産でそれは、核実験をおこなった場所で栽培されたタバコ葉を使用しているのです。

面白い事に日本の喫煙率は下がっているのに、肺がんの患者は増えているのです。

被爆したタバコ葉を使用したタバコを吸うことによって、身体の免疫力が下がるのです。

なので、自分は銘柄の推奨はしましたが、やめるやめないは本人にまかせました。

父親はタバコをやめた方がいい事はわかっているのですが、それをやめる事は、生きる事でないという決断をしたのです。



帰宅後、丸本さんから本当にありがたいメッセージを頂きました。

丸本さん 22:39

本日は急遽お時間を頂き本当にありがとうございました。
父親は丸本さんにお会いできた事大変喜んでおりました。
重ね重ね感謝いたします。

父親は次回丸本さんとお酒を飲むのを楽しみにして、引き続き治療を継続して、
奇跡をおこしつづけてくれると思います。

また、レポートもダウンロードさせて頂きました。
読みやすく、わかりやすくして頂いて感謝です。

最終レポートを完成させて別途送付させていただきます。

ガチ勉で学んでいる皆様が最高、最幸、最輝の人生を歩み続ける為の一助になれば、
父親をはじめとした中川家一族として至福の喜びです。

以上ご確認の程、宜しく御願いたします。

中川さん、 22:59

僕は滅多に崩れないと自負があるのですが、今日は嬉しくて崩れました。
あれから今まで近所の店で祝杯です。
息子の友達やその父兄までもが...（人数は少ないですよ）

本当に嬉しいです。

癌告知の記念日（？）に父上と飲みましょうよ！

父親の為に、祝杯をあげて頂いて心より感謝です！ 23:16

今日は母親、一番下の弟、父親、自分で夜ごはんを一緒に実家で食べました。
父親は、約1ヶ月ぶりの家族との食事に、笑顔で最高にうまい！やっぱり皆で食べる
めしは最高や！と言っていました。本当に本当にありがとうございました。

癌告知記念日は8月19日でした。
しかも2017年8月19日は土曜日ですのでパッチリいきます！

必ず父親と一緒に飲みに行きます！

実家に帰ってきた後、父親は自分がやりたい事をやりつづけています。

やりたい事をやるのが生きるという事。

- ・大工仕事
- ・狩猟
- ・畑仕事
- ・魚とり

2017年1月2日（余命6ヶ月宣告から4.5ヶ月目）

家族が全員集まって、お正月を迎えることができました。

丸本さん 本当に本当に本当にありがとうございました！

そして、これからも引き続き宜しくお願いいたします！

父親の癌告知記念日（8月19日）には父親と広島に行きます！！！！！！

癌告知記念日を盛大に祝わせてください！！！！！！

感謝

